



## 21世紀の地域技術の創造に向けて

— 工業技術センター「9部制」に拡充・再発足 —

鹿児島県工業技術センター  
所長 原 尚 道

当センターは、1987年12月に発足以来、組織としては、庶務部、企画情報室、デザイン開発室、食品工業部、化学部、窯業部、機械金属部、電子部、木材工業部からなる7部2室制でございましたが、この度見直しを行い、庶務部、企画情報部、デザイン・工芸部、食品工業部、化学部、素材開発部、機械技術部、電子部、木材工業部の9部制で再発足することになりました。

1985年に策定された当センターの整備にあたっての基本方針には、「企画調整機能と工業技術に関する情報センター機能の強化・拡充」が謳われております。それを担当する組織として「企画情報室」が設けられましたが、予想以上に急速な情報化が進み業務量が増えた結果、重点業務である企画調整機能に支障を来すほどになってきておりました。発足時の原点に立ち返って、本来の企画調整機能を強化・拡充するために「企画情報部」としました。

「デザイン開発室」は横断的研究テーマに対応する組織として設けられ、工業製品及び工芸品に関するデザイン開発研究、調査、技術指導等を主要業務としてきましたが、いうまでもなく、当センターの特長はデザインのみならずそれをベースとする「ものづくり」までできるところにあります。その中で、デザイン要素の強い「薩摩焼」や木竹製品等の工芸品まで扱っておりますので、これらも含めて「デザインからものづくりまで」、横断的に対応できる集団として機能させるために「デザイン開発室」を「デザイン・工芸部」に拡大・強化しました。デザイン開発並びに伝統工芸を踏まえた新しい工芸・技術の創造を目指します。

当センターの重点研究分野のひとつに「新素材

・新材料」を掲げておりますが、従来、無機材料は窯業部、金属材料は機械金属部、高分子材料は化学部でと分散した形で対応しておりました。しかし、最近の研究開発をみますと、個別に対応するよりは素材・材料科学として横断的に研究した成果を、最終的には複合化して複合材料として実用化に供するという事例が一般的になってきております。研究の効率化を図るためにもこの傾向を実体化すべきであるとして、素材・材料部門を一本化して「素材開発部」を発足させました。

金属部門が素材開発部に移行された結果、機械金属部は「機械・生産・加工システム技術」に集中することになりますので、「機械技術部」に名称を変更しました。

なお、庶務部には業務の迅速化を図るために総務課長ポストを新設しております。

ご承知のように、昨年11月には「科学技術基本法」が、また12月には「地域における科学技術活動の活性化に関する基本指針」が公布され、21世紀に向けて、わが国は「科学技術創造立国」を目指すという方向が明確に打ち出されました。

21世紀の科学技術創造に向けて、本県における地域技術はいかにあるべきか、またいかに対処すべきか、当センターでも検討を進めておりますが、その具体化のひとつが今回の組織見直しであります。今年度は「九州南部創造的経済発展基盤地域（スーパーテクノゾーン）」の整備も始まり、当センターには「システム技術開発センター」が建設されるという朗報もあります。新しい体制で新しい施設も含めて、「県内企業の技術的拠りどころ」として一層努力する所存でおりますのでよろしくお願いいたします。